

令和2年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第6学年

教科	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の達成率は、90%であった。全体の要旨を捉えて読んだり漢字を使って正確に文を書いたりすることはよくできているが、言葉の特徴やきまりを意識した上での使い分けに課題が見られる。 <p style="text-align: right;">【知識・技能】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに意味理解があいまいな言葉を辞典で調べさせ、言葉の特徴やきまりを再認識させ、定着を図るようにする。また、単元ごとのテストだけではなく、朝学習や授業内でミニテストを定期的に行い、復習を繰り返す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の達成率は、85%であった。資料を用いて根拠のある箇所を見付け、表現することに苦手意識をもつ児童がいる。 <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器等を活用し、1つの資料から根拠を焦点化して見付け出すことを習慣化させる。また、複数の資料から自分の考えを導き出す指導を継続して行い、資料活用の力をさらに高める。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の達成率は、74%であった。問題解決の際、問題を多面的に捉え、様々な考えで解いたり表現したりすることが苦手な児童がいる。 <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考え方と自分自身の考え方を比較検討したり、様々な考え方で問題を解いたり、説明したりすることを通して、多様な考え方や表現ができるような素地を養う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の達成率は、90%であった。実験から分かったことを正しい言葉を使ってまとめることが苦手な児童がいる。また、自分の実験結果だけで結論を導き出そうとして、実験がうまくいかなかった場合にどこが間違っていたのか判断できない児童がいる。 <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正しい用語を丁寧に確認し、ノートに書いたり、復習のプリントを利用したりして、定着を図る。また、結果を考察する場面で、班ごとの実験結果を比べさせ、結果の原因を話し合わせながら、より妥当な結論を導き出せるような授業展開を工夫する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> グループで活動する際に、めあてを立てることや共通の課題意識をもつことに個人差が見られる。 <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを効果的に用いて、めあてに対する取り組みなど、グループで話し合う時間を確保する。活動後も振り返りを欠かさず行い、次時への課題を明確にさせる。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識・技能については、理解している児童が多いが、それを生かして自分の生活に合わせて工夫をしたり、その方法を考えたりすることに課題がある。 <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で実践されていることをインタビューしたり、工夫を自分で調べたりして、それを交流させる活動を増やし、より自分たちの暮らしに関わりながら学習を進められるように授業展開を工夫する。